

新重農主義のすすめ

欧州の田園はいつ見ても豊かで美しい。よく手入れされた農場はなだらかな起伏となって地平線に連なり、晩春には菜種の黄色、麦秋には輝く白銀色を点じてさながら一幅の画である。しかしこの田園も各国の大きな財政負担と努力で保たれていることを忘れてはならない。

戦後四十余年、日本は重化学工業化と貿易立国の道を走り続けてきた。その間農業は農機具、農業の開発などで合理化を進め、高度成長に必要な労働力を提供してきた。しかし今や円高と貿易摩擦の下、産業は大きな構造転換期に立ち、雇用情勢も著しく変化し、農業もまた内外から厳しい対応を迫られつつある。

工業の懸命の国際化努力に比べ、農業の対応がおくれたことは否めない。応分の国際協力と不断の合理化への努力は当然必要であろう。しかし国土の保全、食糧自給率の維持、雇用の確保を考えると、日本の農業の崩壊を招きかねない政策は決してとるべきではない。

安価で良質なものの輸入は消費者の利益であるとして農産品では主張し、工業品では安いものはダンピングという論理はフェアではない。

黄金に実る稲田は世界でも最も美しい風景の一つであると外人もいう。この豊かな田園と国土を後世に残すことはわれわれの責務である。

17～18世紀の資本主義興隆期に、重商主義は商業と貿易による国富の増強を最大の理想とした。その反動として提唱された重農主義は農業こそがあらゆる生産の基盤、国富の源泉と主張した。18世紀の経済理論は、今は古めかしいが歴史に学ぶ発想の転換もまた必要であろう。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
石原産業株式会社取締役農薬開発本部長 家木裕隆〕

目次 (第21巻 第7号)

水稻倒伏軽減剤の特徴と問題点…………… 2

＜四国農業試験場 小松良行＞

1. はじめに…………… 2
2. 作用性の特徴…………… 2
3. 適用効果の現況…………… 4
4. 適用場面の多用性…………… 5
5. 今後の課題と問題点…………… 8

アレロパシーの雑草防除的利用…………… 11

＜四国学院大学 高橋道彦＞

- はじめに…………… 11
1. ヒガンバナのアレロパシーによる
畦畔・法面の雑草発生の抑制…………… 12
 2. アレロパシーと埋土種子よりの
発生雑草の消長…………… 13
 3. ヒガンバナ自生的条件を再現
した鉢条件下での雑草の動態…………… 13
 4. アレロパシー成分の雑草発芽
幼根に対する作用…………… 15
 5. アレロパシーと発芽幼根組織
形成の関係…………… 17
 6. アレロパシー作用の発現機構…………… 18
 7. アレロパシーによる植生およ
びその遷移の制御と雑草防除…………… 19
 8. 将来のアレロパシー研究の方向…………… 19
 9. 結 論…………… 22

静岡県植物調節研究会の歩み…………… 27

＜会長 太田 孝＞

北米稲作見聞記…………… 31

＜日本植物調節剤研究協会

研究所長 小沢啓男＞

植調協会だより…………… 36